

環境経営レポート



信州ハム株式会社

対象期間 2022年4月1日 ~ 2023年3月31日

発行日 2024年2月2日

目次

1	組織の概要	3
2	対象範囲及び実施体制	4～5
3	環境経営方針	6
4	環境経営目標と評価	7～9
5	環境関係法規遵守状況及び違反、訴訟等の有無	9～11
6	外部からの苦情などの受付状況及び対応結果	11
7	問題点の是正処置及び予防処置の結果	11
8	事故及び緊急事態の想定結果及びその対応策	11
9	環境上の緊急事態対応に関する試行及び訓練結果	12
10	サステナビリティ	13
11	代表者による全体評価と見直し等	14

1 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

信州ハム株式会社 代表取締役社長 堀川善弘

(2) 所在地

本社上田工場 〒386-8686 長野県上田市下塩尻 950

(3) 連絡先

TEL 0268-26-8686 FAX 0268-26-8611

(4) 環境管理責任者及び担当部署

環境管理責任者 廣田豊

担当部署 経営企画部

(5) 認証・登録の対象組織・活動

登録組織名 信州ハム株式会社

対象事業所 本社上田工場

対象外 東京営業所、東北営業所、神奈川営業所、埼玉営業所、北陸営業所、
名古屋営業所、静岡出張所、関西営業所、広島営業所、長野営業所
新潟営業所

※対象範囲予定について

2026年3月まで

東京営業所、東北営業所、神奈川営業所、埼玉営業所、長野営業所、新潟営業所
名古屋営業所、静岡出張所、北陸営業所、関西営業所、広島営業所

(6) 事業内容

ハム・ソーセージの製造・販売、及び総菜の販売



グリーンマーク® シリーズ

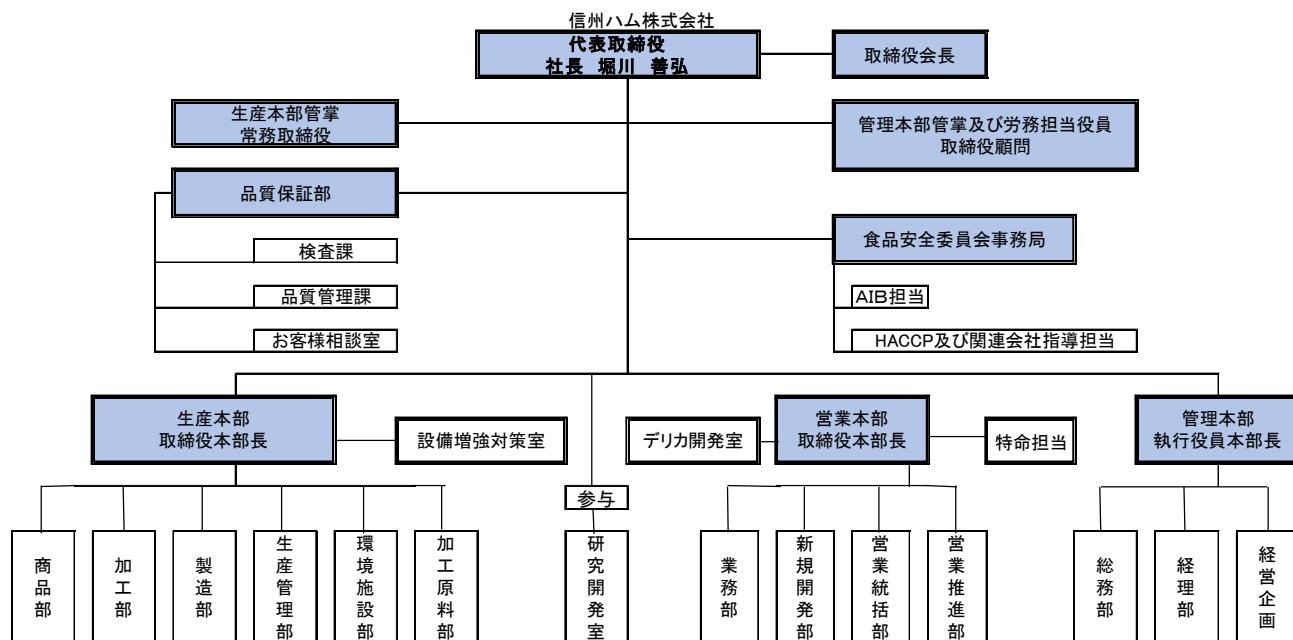


爽やか信州軽井沢シリーズ

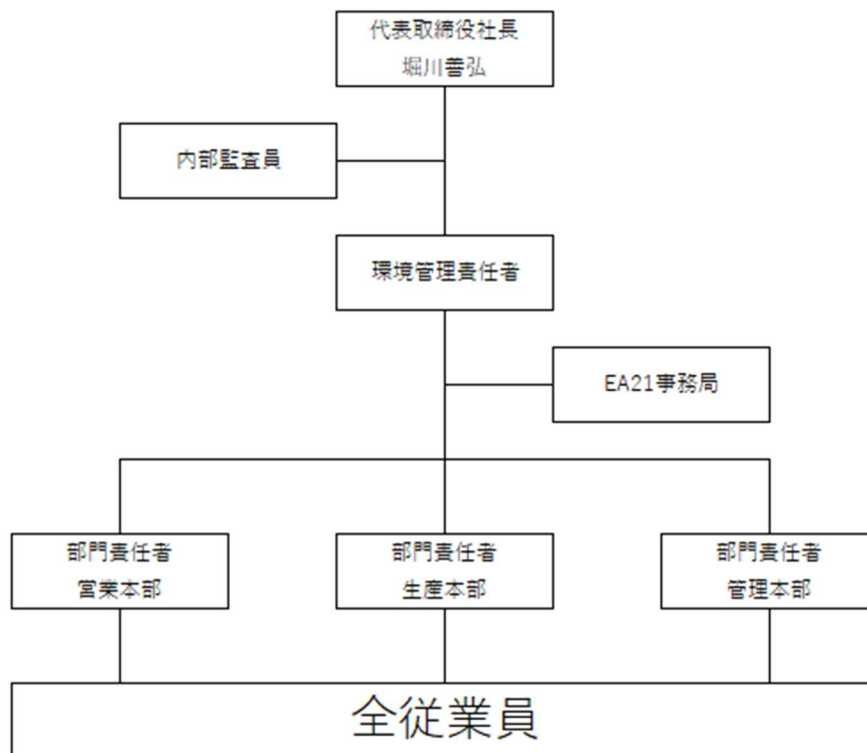
2 対象範囲及び実施体制

(1) 認証・登録対象範囲

信州ハム株式会社 上田工場（食品製造業） ※初年度は営業統括部除く



(2) 実施体制



	役割・責任・権限
代表取締役社長	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営における統括責任 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営企画書を承認
内部監査員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に関する内部監査の計画 ・環境に関する内部監査の実施・報告
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営の構築、管理、実施 ・環境活動の取り組み結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの確認
EA 2 1 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・環境活動の実績集計 ・環境経営レポートの作成、送付 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施
部門責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・各部門従業員へ環境経営方針の周知 ・各部門の問題点発見、是正、予防処置の実施 ・各部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解、環境改善における提案 ・自主的・積極的な環境活動への参加

3 環境経営方針

基本方針

創業以来、信州の澄んだ空気と水に恵まれ、爽やかなハーブの薫る緑の地の、ハム造りに最も適した大自然の恩恵の下、美味しさと安全にこだわってグリーンマーク商品、高級品などの特徴ある商品を作りあげてきました。この恵まれた自然を守る為、私たちは、自然と人類を愛し地球環境問題に全社上げて取り組み、かけがえのない自然を大切に、資源・エネルギーの環境に調和した利用により、地域と地球の環境保全を積極的に推進し、環境経営の継続的改善を誓約いたします。

行動指針

1. 環境関連諸法規等の遵守
2. 環境管理体制の充実
3. 環境負荷低減
4. 廃棄物の削減
5. 省資源、省エネルギーの促進
6. グリーン調達促進
7. 啓発活動の実施
8. 環境に配慮した商品又はサービスの提供
9. 環境経営方針は全従業員に向け周知する。

改定記録 2023年6月1日 基本方針 一部改訂
行動指針 項目8、9 追加

制定日：2001年9月3日

代表取締役社長 堀川善弘

4.環境経営目標と評価（環境施設連携）

単年度目標

項目	単位	基準 (2021 年度)	実績 (2022 年度)	目標 (2022 年度)	目標 (2023 年度)
二酸化炭素排出量原単位	t-CO2/ t	0.668	0.673	0.661	0.655
総二酸化炭素排出量	t-CO2	6381	6339		
動植物性残渣排出量原単位	t / t	0.054	0.064	0.053	0.052
総動植物性残渣排出量	t	513	600		
廃棄プラスチック排出量原単位	t / t	0.030	0.033	0.029	0.028
総廃棄プラスチック排出量	t	284	307		
汚泥排出量原単位	t / t	0.075	0.077	0.073	0.071
総汚泥排出量	t	720	728		
食品廃棄物の発生量原単位	t / t	0.054	0.064	0.052	0.051
総食品廃棄物の発生量	t	513	600		
食品循環資源の再生利用率	%	100	100	100	100
水使用量原単位	千 m ³ / t	0.037	0.028	0.036	0.035
総水使用量	千 m ³	358	264		
包装重量	t	9554	9421		
環境配慮の取り組み	8.サステナビリティ 詳細を記載				

※中部電力ミライズ CO2 排出係数 : 0.388 t-CO2/千 kWh (2021 年度)

※原単位の指標 : 包装重量 t

中長期目標

項目	単位	目標(2024 年度)	目標(2025 年度)
二酸化炭素排出量原単位	t-CO2/ t	0.648	0.641
動植物性残渣排出量原単位	t / t	0.051	0.050
廃棄プラスチック排出量原単位	t / t	0.027	0.026
汚泥排出量原単位	t / t	0.068	0.066
食品廃棄物の発生量原単位	t / t	0.049	0.048
食品循環資源の再生利用率	%	100	100
水使用量原単位	千 m ³ / t	0.034	0.033
環境配慮への取り組み	8.サステナビリティ 詳細を記載		

※中部電力ミライズ CO2 排出係数 : 0.388 t-CO2/千 kWh (2021 年度)

※原単位の指標 : 包装重量 t

①二酸化炭素排出量の削減（電気・ガス）

計画内容	エネルギー使用の効率化を推進し 排出量原単位 年1%削減。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・変圧器、エアーコンプレッサーを高効率のモノへ更新したが 1%削減には至らず。 ・手間ヒマがかかる商品群の需要が高まりエネルギー原単位は 1%増加してしまった。
次年度以降の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ボイラー運転設定の見直し。 ・電力監視システム更新。 ・高効率ブロワポンプ導入。

②動植物性残渣排出量

計画内容	製品不良率を改善し 排出量 年2%削減
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・原料事情の悪化に由来する製品不良が増加してしまった。 ・生産機器のトラブル多発による不良も増加。
次年度以降の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・原料検品の強化。 ・生産機器のメンテ計画見直し。

③廃棄プラスチックの削減

計画内容	生産体制の効率化、自動化を図り 排出量 年3%削減
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・生産機器のトラブル多発によるプラ包材ロスも増加。 ・機器取扱に由来するプラ包材ロスも発生した。
次年度以降の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・生産機器のメンテ計画見直し。 ・休憩時間短縮によるノンストップラインの構築により生産性効率化及び空包材の削減

④汚泥量の削減

計画内容	排水処理施設の改善を図り 排出量 年3%削減
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・工場で使用している洗剤の影響で、排水中の油脂が分離できず汚泥の含水率が高くなってしまった。
次年度以降の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・汚泥脱水機更新

⑤食品廃棄物の発生量

計画内容	製品不良率を改善し 排出量 年3%削減
評価	<ul style="list-style-type: none"> 原料事情の悪化に由来する製品不良が増加してしまった。 作業行程中トラブルによる不良。
次年度以降の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 原料検品の強化。 作業手順や機械のメンテナンス。 スライサー機械導入による歩留り向上

⑥食品循環資源の再生利用率

計画内容	食品循環資源の再生利用率 100%の維持
評価	堆肥化することで 100%維持ができた。
次年度以降の取り組み	再生利用率の維持

⑦水使用量の削減

計画内容	節水 P R 使用量原単位 年3% 削減
評価	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化し 漏水していた給水バルブを積極的に交換した結果、目標達成。
次年度以降の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 従業員に節水の協力を呼び掛ける。 漏水点検の実施。

5.環境関係法規の遵守状況の確認及び違反、訴訟等の有無

環境関連法規等	摘要事項	提出資料	提出頻度	遵守状況 (○ or ×)	遵守確認年月日
大気汚染防止法	設置・変更及び廃止の届出	煤煙測定	年2回	○	23年7月3日
廃棄物処理法	定期報告、マニフェスト管理	産業廃棄物処理計画 マニフェスト	年1回	○	23年6月20日
水質汚濁防止法	規制基準の順守	水質検査	月1回	○	23年11月22日
PRTR法	定期報告	P R T R届出	年1回	○	23年4月1日

フロン排出抑制法	定期点検実施及び記録保管	漏えい量報告	年1回	○	23年4月20日
省エネ法	第1種エネルギー管理指定工場、定期報告	定期報告 中長期計画	年1回	○	23年7月26日
食品廃棄物リサイクル法	食品廃棄物多量発生事業者、定期報告	定期報告	年1回	○	23年6月20日
容器包装リサイクル法	販売した商品に使用した容器や包装が、エンドユーザー（お客様）の手元でゴミとなるものを容器包装リサイクル法に従いリサイクルを行う	定期報告 （自社でのリサイクルが不可能のため、専門の協会に委託し、リサイクル事業を実施する	-	-	-
騒音規制法	規制基準の順守	長野県環境部発行 公害関係基準のしおりに準ずる	定期測定	夜間騒音、周囲への影響に配慮	-
振動規制法	規制基準の順守	長野県環境部発行 公害関係基準のしおりに準ずる	定期測定	-	-
工場立地法	敷地面積に対する生産施設面積の割合が15~40%以下 敷地面積に対する緑地等の環境施設面積の割合が25%以上で、うち緑地が20%以上	-	-	-	該当せず
消防法	例 消火器の管理、危険物貯蔵施設設置許可及び定期点検、危険物取扱者の届出	消防用設備等点検結果報告書	年2回点検 3年に1回届出	○	23年7月28日
事業活動温暖化対策計	工場等の原油換算エネルギー使用量 年	事業活動温暖化対策計画書	年1回	○	23年7月26日

画書制度	1,500kl 以上。			
------	-------------	--	--	--

過去3年間環境法規、条例等に関する違反、訴訟等はありません。

6.外部からの苦情などの受付状況及び対応結果

対象期間における外部からの苦情はございませんでした。

7.問題点の是正処置及び予防処置の結果

- ・CO2削減目標については、排出量年1%削減を掲げていたが、変圧器、エアコンプレッサーを高効率のモノへ更新を行ったが、環境への負荷が高い商品の需要が高まり、約1%増加してしまった。
- ・廃棄物については、年3%削減を掲げていたが、原料事情の悪化に由来する製品不良が増加してしまい廃棄量が増加してしまいました。

8.事故及び緊急事態の想定結果及びその対応策

◇緊急事態の想定：コンセントのショートによる火災発生への初期消火

- ・訓練実施日：2022年5月12日と5月13日
- ・参加者：当社従業員97名、関連会社9名 ⇒ 計106名
- ・訓練概要：
 - ①各職場での消火器の設置箇所、避難経路(非常口)を確認
 - ②水消火器を用いて、消火器の使用方法の実習
- ・評価：コンセントからの発火(トラッキング現象)についての注意喚起を行い

安全ピンを抜く⇒火点に向けてホースを構える⇒レバーを握って

「自分の足元から火点に向かって」、「火点周囲の燃えているもの全体へ」消火液をかける

この手順の実習を行った。「単純だけど、慌てていると咄嗟には出来ないかも」との感想があった。

訓練内容自体の変更は不要で、繰り返し訓練を実施していく。

- ・実施状況の様子



9.環境上の緊急事態の対応に関する試行及び訓練の結果

◇緊急事態の想定：建物火災発生に対する避難

・訓練実施日：2022年11月8日

・参加者：当社従業員285名、関連会社24名 ⇒ 計309名 ※消防署職員2名立ち合い

・訓練概要：

①火災発生時の初動⇒報知器の動作確認、発報から避難までの従業員への指示と連絡

②防火管理者は別途、消防署へ通報連絡(119通報に相当)を行なう

③各職場での避難経路の確認 ⇒着替えを行わない範囲での避難と非常時の出口の確認

地区隊長(職場代表者)は各職場の逃げ遅れ者がいないことを確認

守衛裏駐車場まで避難し、本部員へ逃げ遅れ者がいないことを報告

④消防署員より訓練の講評をいただく

・評価：従業員の避難については動画マニュアルの効果もあり概ねスムーズに行えたが、

一部の避難経路において人数が集中してしまう箇所があったとのことで

分散が可能かどうかの検証を行い、可能であれば避難経路の更新を実施する

※動画マニュアルの一例



・実施状況の様子



10.サステナビリティ

① 環境に配慮した取り組み

◇包装形態変更

包材変更によるプラスチックの削減だけでなく、商品の体積減少により、2024年問題に向けた輸送面での負荷減少の効果もございます。



◇廃棄ロス削減

エシカル消費の観点から、色や形が悪く正規品として出荷できないもの、納期期限を過ぎてしまった商品を対象に「食品ロス削減取り組みセット」としてご利用いただいております。



◇FSC 認証紙

紙は木材を主な原料にしておりますが、その木材が無造作に伐採されているようでは紙を使用しているだけで環境破壊になってしまいます。

このマークは、森林管理や伐採が環境に配慮して行われているかどうかを

評価・認証し、そういった森林に由来する製品であることが証明されている紙になります。



② 社会貢献活動

◇商品寄贈

次世代を担う子供たちに安全で安心な商品をご利用いただくため、定期的にフードバンクや子ども食堂などに商品提供をさせていただいております。

◇信州ハムSDGs基金

当社をご愛顧いただき、支えてくださっている地域の皆様への恩返しとして、2022年12月28日に「信州ハムSDGs基金」を創設しました。「信州ハムSDGs基金」は、持続可能な美しい信州の自然環境やそこにある子どもたちの学び・育ち、地域の暮らしを守っていくための活動を応援する冠基金（助成）プログラムです。売上の一部を原資として、助成事業に有効に活用いたします。この基金による助成事業は、2023年度より開始され、環境保全、自然との共存、豊かな子ども若者支援、学び支援などに対し助成を行ってまいります。



創業の地、信州へ、地域の皆様に支えていただいた賜物と感謝を込め、持続可能な美しい信州を願い、誰ひとり取り残さない、思いを込め「信州ハムSDGs基金」を設立します。

③ 社内でのSDGS

◇社内啓蒙

「SDGsって聞いたことはあるけど中身までは知らないという声が多く、目標1~17までの説明や、当社の取組内容を動画にしております。

11.代表者による全体評価と見直し等

当社は食品安全規格である「FSSC22000」を取得しており、お客様により一層、安全安心な商品を提供するべく環境配慮への意識向上を目的としてエコアクション 21 への取り組みを実施いたしました。

目標達成状況は、食品循環資源再生利用率については継続して 100%を維持することが出来たが、原料事情悪化に由来する製品不良の発生などもあり他項目についてはほぼ未達であった。

対策として、休憩時間変更に伴うノンストップライン構築による廃棄物削減への取り組みや省エネルギーな高効率機器の導入に努めてまいります。

環境経営方針、環境経営目標・計画、実施体制他いずれも変更はございません。